



令和2年 7月14日
No. 20
文責 校長 飯久保一男

基礎・基本を確実に身につけること

今年はプールでの授業ができないことをとても残念に思っています。陸上運動で50m走のタイムを1秒縮めるのは大変なことです。泳ぎのタイムを1秒縮めることは多くの子が体験できるのです。泳ぎの距離を延ばすことも多くの子が体験できます。プールでの授業は、子どもたちが「できた」「のびた」という実感を味わえる学習になります。何より、子どもたちの多くが楽しみにする学習です。



今年は授業をしない小笠原小プール

私が水泳の学習で思い出すのは、白根〇〇小学校で受けもったS美さんのことです。

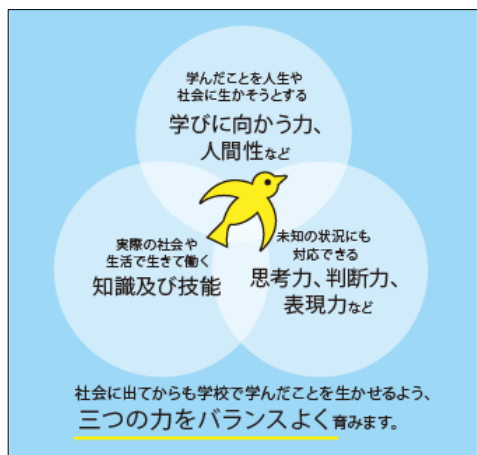
S美さんは、とてもおとなしくまじめな子で、体育が得意というタイプの子ではありませんでした。5年生で受け持ったときには、S美さんは全く泳げませんでした。泳げるようになりたいという彼女の思いと、私の正しい指導によって、授業の中で、浮くことを覚え、水の中での「のび」や水の抵抗が少なく進む形や正しいキックやストロークを覚え、素直で形のいい泳ぎを身につけていきました。学校主催の夏休みの水泳教室にも休まず参加し、5年の夏の終わりには25mを泳げるようになりました。

S美さんは、6年になると、泳ぎに磨きがかかり、水泳記録会*では25m自由形に出場しました。そして、なんと!! 3支会(白根・八田・芦安の6小学校)で1位となったのでした。5年の始めは全くのカナヅチだった子が6年の記録会で1位になるとは…。S美さんの保護者や私もびっくりしましたが、何よりS美さん自身がびっくりしていました。

我流で泳ぎを覚え、変なクセがつくとなかなか直せないものですが、S美さんの場合は全く泳げないところからの出発だったので、泳ぎの基礎・基本を身につける段階から始まり、理想的なフォームへと進化していった成果でした。



*水泳記録会…今では行われていませんが、以前は球技会や陸上記録会だけでなく、支会や班の6年生が集まって水泳の記録会も行われていました。



学習指導要領において求める力

これは水泳の学習に限らないことは理解いただけると思います。

全ての学習において基礎・基本を確実に身につけてこそ、

その後の成長・発展・進化があるのです。

…もちろん、生活においても、基礎・基本は大切で、必要です。

小学校へ入学する前に、字が読めたり書けたりすることを自慢する場合があります。漢字も書ける、100まで数えられる、たし算やかけ算ができると自慢する場合があります。しかし…、子どもの向学心や好奇心は大事ですが、早く覚えたからといって、天才でも秀才でもありません。入学したときに「ボク書ける！」と言っている子ほど、字の形も筆順もメチャクチャで、それが定着してしまっていて、それを直すのに私たちは労力と時間がとてもかかるのです。

「風呂場勘定」といわれる「100まで数えて上がりなさい」という数の覚え方をして、入学前に50とか100といった数が登場する家庭も多いかもしれません。1年生は今、算数で「 $4+5=9$ 」「3と7で10」という学習を学習しているのですが…。高学年でも、小数や分数の計算を塾などで「教わって」学校で学ぶ時期よりも早く「覚えて」いる子もいます。先に「教わって」いるだけで、特に賢いわけではないのですが、周りから尊敬のまなざしで見られることがあります。しかし、それは一時的なことで、みんなで学習を始めるとすぐ追いつきます。**基礎・基本を確実に身につけている子は、学習を楽しみ、授業を楽しみ、学校での授業の学習進度で十分にのびるものなのです。**

<おまけ…矛盾していること>

そうはいうものの、子どもたちの生活と学習の間には、いろいろな矛盾があります。学習する前に、正しい意味を理解しないで、目や耳にしたり、覚えてしまったりするものが多くあるのです。算数で小数や長さ、重さを学習していない低学年生でも、身長は「□□.□cm」と、小数であり、長さである数値を耳にしています。体重も「〇〇.〇kg」と小数であり、重さである数値を目にします。靴のサイズでも「23.5cm」「23.0cm」という数値も聞いているはずですが。見聞きするうちに、学校で学習する前の子どもたちの中に、「小数」や「長さ」や「重さ」の勝手な概念ができてしまっていることもあるのです。それを改めて学習することは実はヤッカイなことなのです。

…「23.0」という言い方は特殊形です。授業では小数点以下が0なら、23.0とはせずに、小数点以下を消去して「23」とすることから学習します。

それとは逆に、自分の名前の漢字を国語で学習するまで書いてはいけないとしたら、小学校を卒業するまで自分の名前を漢字で書けない子がたくさん出てしまいます。これも矛盾です…。こういった矛盾との折り合いがうまくつかないものかと思いますが、難しいことです…。



【ちょっといい話】

その1 …やさしい彼氏

交差点で信号待ちするカップルがいた。
信号が青になると、彼氏が突然、びっくりするような大きな声で
「青になったぞ！ 行くぞ！」
と言った。
見れば分かるよと言いたげな顔の彼女だったが、
このとき彼女は彼氏のやさしさに気づいていない。
彼氏を挟んで反対側に、白い杖を持った方がいたのだった。



その2 …やさしい運転手

バスで自宅に帰る途中のこと。
誰も降車ボタンを押していないのに、バスが停留所に止まった。
乗る人もいない。



すると運転手から
「すみません。後ろで寝ている小さなお子さんいませんか？」
その子、たぶんここで降りるので起こしてもらえますか？」
とアナウンスがあった。
起こされた小学1年くらいのその子は照れながら降りていった。
みんな笑顔になった。